



手法を持たずに理 念を実現できるか

混乱する政治に今必要なこ

渡辺 日出男

思想・理念と手法

手法を持たずに理念を実現できるか？

目次

思想・理念と手法	
手法を持たずに理念を実現できるか？	崇高なる志？
	手法と“高い思想？”の関係
	明治維新後の半分を生きた者の実感
	小泉首相も石原知事もその産物
	日本人の行動規範
	「武士道」の意義 1
	「武士道」の意義 2
	ここからが問題
団塊の世代との共闘	
関連ブログ	
1. 小泉戦略とホリエモン	国会議員の道德観 ホリエモンの立候補？
2. カトリナ災害と小泉郵政選挙	国と国民 財務破綻
3. トホホの選挙「こずるい人が生き残る旨みのある生業」	高村薫 こずるいと言われた
4. みずほ証券の入カミスと武士の情け	
5. ほらあるじゃないか！武士の情け	
6. 再び武士の情けーみずほ証券のミス	
7. ライブドアで誰が何を恥じるって？	
8. ライブドアに損害賠償を求めるのは勝手だが……できるのか？	
9. ホリエモンの功罪なんて言わないーライブドアの再建戦略	たったひとりに踊った日本 ライブドアを残す

2006年2月24日

カレイザネット 渡辺 日出男

思想・理念と手法

手法を持たずに理念を実現できるか？

崇高なる志？

事業計画の要諦セミナーサイトに続いて、仲間とカレイザネット(chalaza.net)を立ち上げ、やっとその方向性も定まってきました。

4月末ごろ、私が“起業家の育成はできないか”で苦言を申し上げた国の外郭機関のパンフレットなどを制作している企業の社長さんからセミナーについて、以下のようなご指摘を得ました。

『近代科学の分離分析の思想による、技術偏重、能力主義による日本の荒廃を救うのは、高い思想(変なイデオロギーではなく)だと考えます。宗教を経営や経済に持ち込むことは危険ですが、哲学者や宗教家の多くの金言に、解決の鍵が沢山存在することも確かです。私はCIや企業理念を扱う場はずっとおりますので、このあたりのことを常に考えて生きております。残念ながら、そして僥倖ながら、渡辺さんのおっしゃっているのは手段手法のエリアを出ずに、私が考えるところの日本を…ということに関して言えば、経営者の思想を変える、無思想な経営者無思想な役人、無思想なビジネスマン、無思想な教育者を、不況だなんだと言いつつ何となく生活を維持できる生ヌルな日本の社会の中でどうしていくかということにつきまします。しかし、テクノクラートや手法手段のレベルに置いても、改革を続けていかねばならず、しかし貴殿のおっしゃるところの手法手段は、確固たる思想無くして、崇高なる志無くして改善の域を出ることが出来ず…』

この方は、青年会議所などでも活躍し、立派なお坊さんのパラダイム・シフトに関する思想に心酔されているようです。理念をお持ちの立派な方だと思います。

これまで、高い知性も技術も持って理念や思想を語る幾人かの経営者にお会いしました。それをカリスマと称してもてはやす人たちがいることも知っています。

私自身はそれらを語ることを恥ずかしいと思ってきました。50歩100歩なのによく言えるなあ、まして自分が語るなど、わが身を振り返ると…(冷や汗です)ととてもとてもというわけです。

しかし、そのような方達の多くが、実は手法を持っていないから“崇高なる志”を現実にするパワーを発揮できないということにも気付いていました。

セミナーは戦略立案のための“考え方の手法”です。それは間違いありません。同時進行しているカレイザネットは、その手法を使いこなすことができる基盤を作るためのものです。「近代科学の分離分析の思想による、技術偏重、能力主義による日本の荒廃を救うのは、高い思想(変なイデオロギーではなく)だと考えます。」の前半の意味は私には理解不能で、どうでも良いことに思えます。イデオロギーにも思想があり、各種の宗教も思想です。氏のおっしゃる“高い思想”とは、氏が個人的に信ずる宗教家の思想なのではないだろうかと思ってしまう。

私は、“起業家は育成できる”と考え、それを阻害する可能性のある(氏がパンフレットを作成して推進を助けている)“官製のベンチャー創出システム”は間違いと思っています。その対案が、手法である私のセミナーです。

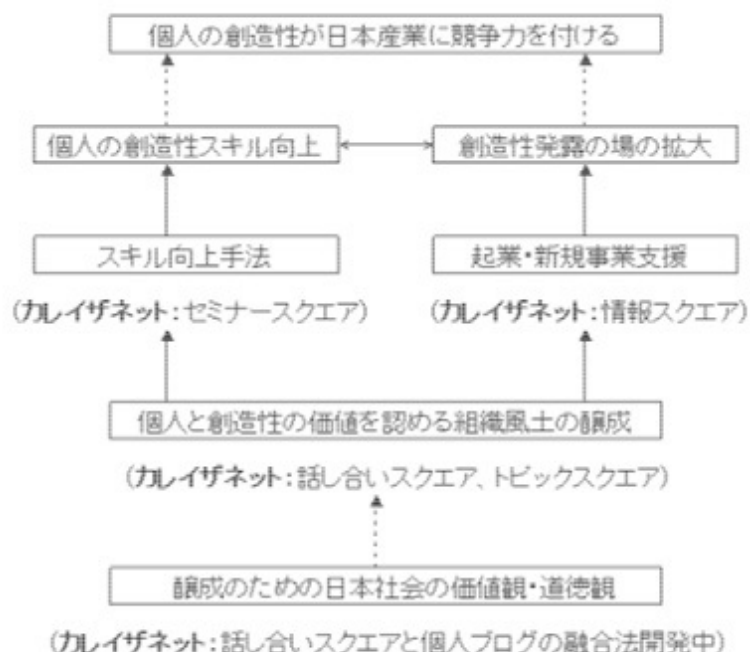
私は、文部科学省の予算を得て“官製システム”を考案したお役人が無思想とは思っていません。“高い思想”の下、「しかし、テクノクラートや手法手段のレベルに置いても、改革を続けていかねばならず、」としてその創出システムによってビジネスをしていることになります。手法手段を知らなければ“高い思想”も語るだけに終わるのではないのでしょうか。

カレイザネットは理念や思想ではありません。これも正しい方向に進むための場の提供であり、その意味で手法に過ぎません。ただし、ビジネスと創造性をテーマにして日本を変える運動を目的としています。

カレイザネットを共に立ち上げた仲間も決して“高い思想”を謳いませんが、なぜ日本が荒廃しているかについて、歴史的な認識を共有しています。模索していたカレイザネットの基本手法がほぼ出来上がった今、私たちがなぜこのような運動を始めようとしたのか、なぜ手法であるセミナーを原則無料としたのかを明らかにするタイミングと思い今日から数回に分けて述べていきます。(2005年7月22日)

手法と“高い思想？”の関係

下図をご覧ください。カレイザネットが目指すものは日本産業の競争力でその鍵は個人の創造力にあると思っています。カレイザネットの各スクエアは個人とそれを支える組織に刺激を与えるための手法の例示や交流の場です。これは目的を達成するための戦略であり手法になります。個人の考え方や組織の変革は社会の通念に多かれ少なかれ影響されます。最下段の価値観や道徳観というようなものです。



カレイザネットは、思想を押し付ける気もありませんし、何とか主義何とか思想をそのまま適用できるとも思っていません。ただ、私たちが個人的に継承してきた日本および日本人の慣習や美徳が社会変化と共に変質し、混乱の状況にあると思っています。価値観が一枚岩である必要はないと思いますが、道徳などのような社会規範は個人レベルから社会レベルに高まる必要はあると思います。そして私たちの知性が、それを高めることができると信じています。

この後このブログで述べることは、その混乱がなぜ起ってきたのか、人類の普遍的な美徳とは何か、そして私たち日本人の特徴は何かについて先人の卓見を参考にしながら私見を述べるものです。カレイザネットは、私たちの知性を交流し、社会に発信するための仕組みを模索しています。そのために、今はまだ若い人たちのものと言っても過言ではないブログの活用を考えています。最初に、

社会規範の混乱について述べてみたいと思います。

明治維新後の半分を生きた者の実感

明治維新(1867)以後富国強兵政策が取られ、1894年(33年後)日清戦争、1904年日露戦争と軍国主義が強くなり、1931年(64年後)満州事変そして1941年(74年後)太平洋戦争へと進みました。終戦が1945年(78年後)です。今年(2023年)は終戦から78年になります。私は、1941年の生まれです。つまり明治維新から138年のうち、64年間生きたことになります。

私の場合、軍国主義教育の実体は分かりません。幼い記憶ですが、鬼畜米英という当時の日本社会を覆っていたスローガンの残渣は深く心に刻まれています。戦後地域に暮らす中国人や朝鮮人をばかにし、石を投げつける子供たちも少なくありませんでした。中国人や朝鮮人に対する差別の存在を知った原点です。小学校時代はほとんどが資格を持たない代用教員でした。その時代、思想的にもっとも混乱していたのは、私たちの親であり、教員であったと思います。昨日までの軍国主義が一夜にして訳の分からない民主主義になり、社会党や共産党といういわゆる左翼が幅を利かす風潮になって、社会の根幹をなす価値基準が混沌としていたのです。その中で、多くの善良な人々は、それぞれ個人的持つ伝統的な“人の徳”のようなものを基準として行動していたと思います。更に、戦後の荒廃した各地を天皇が訪れる行幸も目のあたりにしました。今思えば現人神から象徴になったとしても一般の国民には何も変わらない絶対的な存在であったのだと思います。当時、貧困層を中心に猛烈な折伏活動を行っていたのが、創価学会です。知り合いの中にも学会員となった家庭もありました。一般的には、異質のものという気味悪さがあったと思います。そんな混乱の時代であっても、正直、勤勉、そして“まじめに努力すれば必ず報われる”という“信ずるべきもの”を多くの人々が持っていたと思います。“報われる”は必ずしも金銭を意味していなかったところが現在と大きな違いができません。大学に入学した1960年はいわゆる安保闘争でした。マルクス主義を信ずる者がいる反面、親からの軍国主義礼賛の影響が残る日本主義的な思想もありましたが、それは反動の名の下に糾弾の対象でした。そして多くの人たちは、戦争がなぜ起きたのかそれを疑問に思いながらそれぞれが心に決着のつかないまま明日を生きることに精一杯が実態だったと思います。私自身は、日本がやむに止まれず起こした戦争であって欲しいという願望から、生まれた時代背景や開戦までの経緯について知ろうとしました。いつの頃からか生まれた欧米、白人に対する劣等感もあって、大東亜共栄圏構想のすばらしさや八紘一宇という思想がこの戦争の正当性を示す何かにならないかという切ない想いもありました。残念ながら望みどおりの答えを見出せなかったのです。実際のところ八紘一宇などという言葉や言葉を日常的に聞くことはまったくなかったのです。私の生まれた前後に絃一(代議士の加藤さんもそうです)などの名が多いのですが、名前の由来を声高に語られることはなかったのではと思います。この思想は、大義名分に過ぎなかったにせよ、理想そのものはすばらしいものです。名前の由来さえ堂々と語ることでできないという状況が長く続き、その言葉も死語になってしまったのです。経済面では、1960年に所得倍増計画が打ち出され、その後日本は経済の完全な復興を目指した官民上げて経済路線をひた走ります。1970年代に田中角栄の日本列島改造論が出ました。土地によって財産を築く人が一般に広まり、金権主義が庶民に広がり始めた重大な節目です。それは80年代の土地バブル、株バブルへとつながってきたといえます。日教組の活動は日本の伝統を拒絶するものですが、いまだに日本文化を作り直すという観点から見るとどこに軸足があったのか不明です。つまり、日本を動かす、あるいは教育の基本にあるべき根幹思想が不在のまま今日まで来たことが分かります。憲法の示す平和主義があるではないかと言う意見もあろうと思いますが、ここではその平和主義を希求する個人個人の徳を共有する基盤のようなものを言っています。もちろん、個人として立派な人々が多数いますが、それはあくまでも個人の価値の所産であり、社会的に広がりのある基盤思想にはなっていないということで

す。

小泉首相も石原知事もその産物

小泉首相も私と同じ年の生まれのはずです。私の生まれた前後10年、昭和6年(1931)から昭和26年(1951)に生まれ育った人々は、この国の根っことなる思想や理想が混沌とした教育不在の恐ろしい時代の産物と言っても間違いではありません。そのような視点から小泉首相の言動を見てください。あの方の、強いリーダーシップの表現方法、孔子を持ち出す人間の徳、他の人を見下すかのようなとてつもないエリート臭、米国との対話に見られる迎合等々。立派なご家庭に生まれ、家庭内教育はすばらしかったのでしょう。勉強もされたのでしょう。強い信念もお持ちなのでしょう。しかし、それは、あくまで小泉家の伝統と氏が人生過程で獲得した個人の理念と理想に過ぎないのです。強いと思っている信念が世に受け入れられないと分った瞬間に今度は壊す行動に出るはずです。この世代に特有の自信のなさの典型的な行動様式だと思われまます。この世代が持っている信念は、根っこが非常に脆いのが特徴です。もちろん私も含めてですが。この世代の中小企業の学歴の高い社長は理念を語るのが好きです。しかし、その理念を達成する手法を持ちません。理念と行動が乖離します。私は、これまで理念を声高に話す人は信用ならんと思っていました。理念が個人的な経験に根ざすもので奥行きがないことが一つ。その上、それを達成する手法を持っていないからです。結局、精神論に終わります。このような視点から、フジテレビとライブドアを見てみましょう。フジは時間外取引が卑怯と言います。この卑怯という感覚は、伝統的にあの年配にある人たちの個人的な徳の基準です。(私もそれには同意します。)しかし、ホリエモンには、違法ではないという基準だけで卑怯の感覚が分りません。法が唯一の基準なのでしょう。ホリエモンの世代は、社会規範に自信のない世代に教育された、これも悲しい世代です。一方、フジは卑怯と言っても、手法を持っていないばかりに幼稚な攻撃に曝されました。私は、この事件では、フジ側の不勉強(勤勉さ)を非難する気持ちが強いです。感覚として、理念らしきものがその血にあるにもかかわらず、混沌とした結果生まれた金権主義に根ざす体制にどっぷり浸かって他の徳の基準がすっぽり抜け落ちてきているからです。フジの会長の朝の記者のインタビューに対する返答は右往左往したでしょう。単純に若い世代への迎合と個人的な感覚(徳とは言いませんが)が行きかう自信のなさの表れです。そして、株主総会で辞任するかと思いきや、居座りでしょう。感覚の“卑怯”が徳になっていない典型例です。そして、それを押し留めることができない社会の“卑怯さ”に対する通念の希薄を示しています。

私は、石原慎太郎・裕次郎兄弟をヒーローとして青春を過ごしました。したがって、石原知事の言動にはどうしてもバイアスがかかります。そのバイアスの強さを認識する事件は比較的最近のことです。当時国交省大臣であった息子さんが、道路公団総裁藤井氏との会談の暴露記者会見がその発端です。藤井氏が「私が真実を言えば、政治家の首が飛ぶとか死人が出る」とか言ったという話を興奮して話しておきながら、数日後には、「私はそんな話はしていない」という弁解の惨めたらしさです。石原氏の著作やテレビでの会見から、危うさは感じて「この人は、日本のあるべき社会規範をしっかり持ち、その(社会的に危険と思われる)面が突出するのはこの人一流の手法なのだろう」と期待する気持ちを捨てきれないのです。ヒーローですから。しかし、この息子さんの言動は、「ああ、この立派なお父さんの有名なスパルタ教育も、卑怯さやひと言の責任を教えることはできなかったのだ。」という落胆というか、しかたないかという感想です。石原氏は、勝手な期待と落胆はこちらのことで、俺には関係ないとおっしゃるでしょうが、氏がどう書こうが、氏が理想とする社会規範らしきものも結局はあの時代を生きた個人のことに過ぎず、したがって氏に対する賛否両論が湧き起こるのだらうと思うようになりました。(2006年7月23日)

日本人の行動規範

軍国主義が純粋に政治的な意図として一般国民に要求した義務以外にどのような個人が触発される社会規範を生み出したのか私は知りません。子供の頃には、軍歌が特に禁止されることもなく歌詞を目にし、歌を聞く機会も多かったが、軍人さんがこうしたのだからお前もこうでなければならぬ的なことを言われた覚えはまったくありません。他の子供たちにもそれは見られなかったようです。“君が代”は、日常的に歌っていたが、それが何を意味するか学校で教わった記憶もありません。“悪いことをしてはいけない”、“弱いものいじめをしてはならない”、“正しいことをしていればお天道様が見てくれる”というような処世訓が多くの国民の行動規範であったと思います。“勸善懲悪”の時代劇が大人気でしたが、これらは、軍国主義の遺産ではないと思います。そして、アメリカ文化の流入や日教組による教育など、戦後の思想混乱以後の推移を経由してもなお現在でも、赤穂浪士の映画や芝居が支持され、水戸黄門の正義に多くの人が共感する日本人の心情の原点はどこからきたものかということです。

いろいろな解釈があり、悪用された面もあり、誤解を生じることも多い以下の文章を見てみよう。明治維新から33年後の1900年に書かれたものです。

“封建日本の道徳体系はその城郭と同様崩壊して塵土に帰し、しかして新道徳が新日本の進路を導かんがため不死鳥のごとく起る、と預言する者があった。しかし、この預言は過去半世紀の出来事によって確かめられた。かかる預言の成就是望ましきことであり、かつ起りうべきことであるが、しかし不死鳥はただおのれ自身の灰の中から起きいであるのであって、候鳥でもなく、また他の鳥からの借り物の翼で飛ぶのでもなきことを忘れてはならない。”

ここに述べられる新道徳に対する旧道徳とは何か以下に文章です。

“過去の日本は武士の賜である。彼らは国民の花たるのみでなく、またその根であった。あらゆる天の善き賜物は彼らを通して流れでた。彼らは社会的に民衆より超然として構えたけれども、これに対して道義の標準を立て、自己の模範によってこれを指導した。私は武士道に對内的および對外的教訓のありしことを認める。後者は社会の安寧幸福を求むる福利主義的であり、前者は徳のために徳を行うことを強調する純粹道徳であった。”

“武士道は現になお過度的日本の指導原理であり、しかしてまた新時代の形成力たることを実証するであろうから。王政復古の暴風と国民的維新の旋風との中を我が国船の舵取りし大政治家たちは、武士道以外何ら道徳的教訓を知らざりし人々であった。”

これは、1900年(明治33年)に英文を原著とする新渡戸稲造の「武士道」の一節です。(矢内原忠雄訳: 矢内原伊作改版)

私は思想家でもないし、思想研究者でもない。「武士道」を引用するのは、現状と照らして述べるたった二点にあります。

「武士道」の意義 1

“日本人の心によって証せられかつ領解せられたるものとしての神の国の種子は、その花を武士道に咲かせた。悲しむべしその十分の成熟を待たずして、今や武士道の日は暮れつつある。しかし吾人はあらゆる方向に向かって美と光明、力と慰謝の他の源泉を求めているが、いまだこれに代わるべきものを見いださないのである。功利主義者および唯物主義者の損得哲学は、魂の半分しかない屁理屈屋の好むところとなった。功利主義および唯物主義に拮抗するに足る強力なる倫理体系はキリスト教あるのみであり、これに比すれば武士道は「煙れる亜麻」のごとくであること

を告白せざるをえない。しかし、救世(メシア)はこれを消すことなく、これを焔いで焔となすと宣言した。”

日本の教育に熱心とされる森元総理大臣の“神の国”がまさか、本著の悪用ではないと思うが、これらの文章で重要なことは、明治政府誕生後30年間で、武士道の教えに代わるものがないということであり、それ以後100年間で我々は代わるものを見出していないという現実です。

新渡戸稲造は、(義、勇、仁、礼、誠、名誉、忠義)からなる武士道は、“その表徴たる桜花と同じく、日本の土地に固有の花である。それは古代の徳が乾からびた標本となって。我が国の歴史に保存せられているのではない。それは今なお我々の間における力と美との活ける対象である。それは何ら手に触れうべき形態を取らないけれども、それにかかわらず道徳的雰囲気香らせ、我々をして今なおその力強き支配のもとにあるを自覚せしめる。”と言い、“フランスの学者ド・ラ・マズリエール氏は十六世紀日本の印象を要約して曰く、「十六世紀の中頃に至るまで、日本においては政治も社会も宗教もすべて混乱の中にあつた。しかしながら内乱、野蛮時代に返るとき生活の仕方、各人が各自の権利を維持する必要—これらはかのテヌーによりて『勇敢なる独創力、急速なる決心と決死的なる着手の習慣、実行と忍苦との偉大なる能力』を賞嘆せられたる十六世紀のイタリー人に比すべき人間を、日本においても作り出した。日本においてもイタリーにおけると同様、中世の粗野なる生活風習は、人間をば『徹頭徹尾鬭争的抵抗的なる』偉大な動物となした。しかしてこの事こそ日本民族の主要なる特性、すなわち彼らの精神ならびに気質における著しき複雑性が、十六世紀において最高度に発揮せられた理由である。インドにおいて、また中国においてさえ、人々の間に存する差異は主として精力もしくは知能の程度にあるに反し、日本においてはこれらのほか性格の独創性においても差異がある。”としています。

これは、一部にある“日本人を特別の存在”と見る我々自身の思い上がり、あるいは西欧人をして、日本人は分らないとする遠因かもしれないと思う。しかし、ここでその論議はしません。

実際に今日までの64年、新道徳体系に出会っていない現実、そして未だに多数の日本人が共感する映画やテレビなどに見る道徳観、更に表層的なものにしても、サッカー日本代表に“大和魂”の旗を打ち振る若い青年を見る時、新渡戸稲造のいう武士道の名残りは依然として我々の一部であることを認めざるを得ません。残念ながら、それは、新渡戸稲造の言う“我が武勇なる祖先の魂は死せず、見る目有る者には明らかに見える。最も進んだ思想の日本人にてもその皮に搔痕を付けて見れば、一人の武士が下から現れる。”ものではないでしょうが。

しかし、今から100年前の新渡戸稲造の悲願の一部が確実に残っていることに思いを致すべきと思います。

本著の終章である。

“武士道は、一つの独立せる倫理の掟としては消ゆるかも知れない。しかしその力は地上より滅びないであろう。その武勇および文徳の教訓は体系としては毀れるかも知れない。しかしその光明その栄光は、これらの廃址を越えて長く活くるであろう。その象徴とする花のごとく、四方の風に散りたる後もなおその香気をもって人生を豊富にし、人類を祝福するであろう。”

もちろん、新渡戸稲造の生きた時代背景と現在は大きく異なる。軍国主義はなく、家父長制の如きは消滅した。したがって、武士道の要素をそのまま現在に適用して考えることはできない。しかし、そこにある道徳の多くは、時代や人種を超えてなお普遍的である。

その中から、武士道を引用する第二点に関して述べます。(2006年7月24日)

「武士道」の意義 2

(武士道の徳は我が国民生活の一般的水準より遥かに高きものであるが)、武士道はその最初発生したる社会階級より多様の道を通りて流下し、大衆の間に酵母として作用し、全人民に対する道徳的標準を供給した。”

“平民は武士の道徳的高さにまでは達しえなかったけれども、「大和魂」は終に島帝国の民族精神を表現するに至った。もし宗教なるものは、マシュー・アーノルドの定義したるごとく「情緒によって感動されたる道徳」に過ぎずとせば、武士道に勝りて宗教の列に加わるべき資格ある倫理体系は稀である。”

“武士道は特に治者、公人および国民の道徳的行為に重きをおいた。これに反しキリストの道徳はほとんど専ら個人、ならびに個人的にキリストを信ずる者に関するものであるから、個人主義が道徳的要素たる資格において勢力を増すにしたがい、実際の適用の範囲は拡大するであろう。”

“名誉の巖の上に建てられ、名誉によりて防備せられたる国家—これを名誉国家—は、屁理屈の武器をもって武装せる三百代言の法律家や饒舌の政治家の掌中に急速に落ちつつある。”

この三つの文章をじっくりと読んで欲しいものである。

金権主義、政官財の癒着、天下りと談合、社会保険庁の墮落、数え上げればきりが無い社会現象を解く鍵がここにある。治者、公人の圧倒的な道徳観の欠如である。治者や公人は、臆面もなく義、仁、誠を説く。しかし、面目は説いても自己犠牲を伴う真の名誉は説かない。武士道残渣の都合の良い日本道徳観である。

天下りも法に照らして2年間経て行っていると言う高級官僚、失業保険によって建てられた厳しい入居審査のある住宅施設に管理省庁職員が入居して違法ではないと嘯くお役人。

新渡戸稲造は、武士道は不文律で、イギリスの憲法に近いと言う。法律の裏をくぐるのが知恵であり、道徳とは無関係とする現在の風潮は名誉とは無縁のものである。

ここからが問題

さて、ここからが問題である。新渡戸稲造が預言した新道徳は確立されなかった、武士道の残渣は日本人のというよりどの民族にもある道徳観として残っている。どんな世の中、国でも腐敗はある。道徳の乱れもある。許容レベルにあるかどうかである。日本が許容レベルにあると考えるならそれで良い。そうだろうか？私は、もう限度を超したと思う。この大急ぎの荒っぽい文章を書くことになったきっかけは、英国のテロもあるが、昨今の中国、韓国、北朝鮮との外交問題について多くのブログを読み、そこに決定的に欠けている“潔さ”と自分の勝手言い分を頭でっかちの知識で言いつくろ“姑息さ”に嫌気がさしたからである。

東京裁判を国際法の問題と混同した議論、広島原爆の方が非人道的とする理論のすり替え、中国や韓国、北朝鮮に対する一方的な物の見方、等々である。

教科書問題で、自民党の松原さんという方だったと思うが、中国の教員マニュアルのひどさを指摘して、けしからんと息巻いていた。多くのブログにも類似を見る。ひと言聞きたい。私は北海道に生まれた。アイヌの歴史を教えられた記憶がない。旧土人法がごく最近廃止され、アイヌ文化を継承する新土人法とも呼ばれる法律があることをどれほどの日本人が知っているのだろうか。自らを省み、相手を責める前に、公平とは何か、潔さ(戦争を起こしたのは日本であって、韓国でも中国でもない)とは何か、潔さの結果として将来の理想をどう描くのか、それに向かって何をするのか、という視点で物を考えなければ、何の解決も見出せないだろう。そして、そのように考える日本人であ

りたいと願うのはおかしいだろうか。

核を持たないという原則がある。もし、核を持って使わない国民でいる自信はあるか？“日本は核を持つ技術もある、持っているかもしれない。しかし、あの国民は公平が極限に達しなければ決して過激な行動には出ない。”という根本的な信頼を世界が持てるような国民なら、憲法改正の問題も今の論議とはまったく違ったものになるだろう。教育の問題だ、文部科学省が駄目だと文句を言ったところで何も変わらない。政治家が自分の選挙区のことしか考えないと嘆いても何も変わらない。野党がだらしないと斜に構えても何も変わらない。なぜなら、私たちひとりひとりの道徳観も個人的なものであり、政治家や行政の偉い人たちの道徳観も同じく個人的に過ぎないからだ。道徳観が個人的である限りは、権力を持つ者と金力を持つ者の共謀が起る。

政治ばかりでなく、ビジネスにおいても現在の日本と日本人“勝ち組”の道徳観念、米国追随組とも言うべきエリートの頭でっかちの混乱した道徳観に偏りあるいは無秩序を見る。

法に抵触しなければ何をやっても良いというような風潮はバブル期以後特に顕著である。また、すべてを法に照らさなければ物事が進まないようではシステムは機能しない。法で機能させようとするとギスギスした社会になることは目に見えている。弱者はますます弱くなる。

どうしても「武士道」的な社会の規範となる法律以前の道徳観や価値観が必要なのではないかと考える。繰り返すが、「武士道」は誤解を受けるし、悪用もされうる。今の時代に適合する日本人の社会規範をリードする伝統に根ざした基礎概念あるいはアイデンティティとでも言ったほうが良いかも知れない。

書いていて実に偉そうなことを言っているようで気が引けるが、道徳という点で私自身の一生は恥ずべきことの連続で、決して胸張って偉そうに言える資格はない。さらに、自分が個人的に高度成長日本を築きあげた一員という自負もない。しかし、思想不毛の時代を生きた者として、日本人として世界において誇れるアイデンティティの確立に寄与できなかったことに忸怩たる思いがある。特に戦中・戦後派の私たちには、社会規範が不毛の時代であったからしやうがなかったではなく、その後の混乱を生じせしめた責任もあると思う。ホリエモンを支持した層別調査で50代、60代が多かったことの記憶はあるだろうか？“時代を変革するエネルギーを見る”がその支持の理由であった。自分の生活を守ることで精一杯のその世代の多くは、おかしいぞとは思っても日常に埋没し手をこまねいてきたという贖罪意識を心のどこかに持っているのではないかと期待をこめてそう思っている。

団塊の世代との共闘

2007年は団塊の世代が定年になる。それを狙ったさまざまなビジネス機会を模索した活動が始まっている。私も同様に団塊世代の定年を心待ちしている一人である。それは、この世代が組織から離れたときの自由度とブログがこの国の徳を形成する大きな武器になると考えているからである。今現役の彼らのほとんどは家でパソコンを相手にする時間のないのが実情である。

彼らはビジネス世界で多くの修羅場を潜ってきた。ビジネス、人、組織について実に多くを語ることができる人たちである。忙しさに取り紛れて考えきれなかった日本の価値観を語って欲しいと願う。それに整理がつけば、将来のために怒って欲しいと願う。

私の「武士道」の読み方は間違っているかもしれない。私が考える“日本人として持つべき価値観、道徳観、社会規範”も一面的に過ぎるかも知れない。それに拘泥するつもりはありません。

語って欲しい願いを実現するために、私と仲間はささやかなインターネットサイトを準備しました。ロンドンテロがきっかけではあったが、このように長々と述べてきたのは、サイトを準備した背景を説

明することが必要な時期にきていると思うからでもある。サイトはもともと私や仲間の意見を開陳する場ではない。意見は別に設ける個人ブログで好きに述べる。これからはサイトの管理者としての機能に徹したいと思います。

団塊の世代への期待は大きいですが、その前の世代はもちろんのこと、ずーっと後の世代の方もこのささやかな試みに参加して欲しいと願う。

世の中が急展開する今、こんなことをして解決になるのか？という疑問や、こんなマスターベーション的なことをやっても何もならないとしらける人がいるかも知れない。そう考える人に最後に三つのことを申し上げる。

1. 戦後60年、パッチワークを続けてきた結果が今です。ほころびをとりあえず繕うことでシステムを維持することはできません。政治システム、経済システムが産む結果を批判するだけでシステムの変更は起りません。政界のリーダーも経済のリーダーも精一杯やっていると認めるところから始めたほうが良いと考えます。優秀な人たちだって自信なんか無いのです。根源的なところで、これが、「武士道」を持ち出して述べてきた理由です。ささやかであっても、遠回りだと思っても、ひとりひとりができることをやる。それは、現象のみに反応することなく、その底辺に流れる根源について、組織を離れ、フリーな立場で客観的に評価し、その上で自分のアイデアや考えを体系化し、表現する。この60年を生きてきた人は時代の証人です。日本を変える核は思想不毛の時代に育った私たち世代であると思います。その世代の産物である若い人に遠慮する必要などありません。
2. 25年前、有名な米国系コンサルティング企業の代表に、都市周辺の農地はすべて工業に転換すべき、工業で経済を引っ張りお金さえあれば食料などいくらでも買えるという荒っぽい論調の著書があります。それ以後その人の本を読むことを止めました。人気の有識者として政府の政策にも関わってきた人です。いわゆる、オピニオンリーダーです。その結果、何が起きたか誰でも分かります。そして、最近その方がある月刊誌の特集「企業は誰のものか」で、“ホリエモンを評価する。お陰で国民がやっと会社が株主のものであることが分り、これで欧米並みになったから”と言うのです。同じです、25年前と。目先だけしか見えない。日本にとって何が必要か、そのためには商法も変えなければならないというところまでの意識がこの方には欠けているのです。元東芝の会長で、経団連副会長の西室氏が地方自治のいわゆる三位一体改革の委員長でした。有名人になれば、何でもできると周りが思い、行政の施策にとって都合の良い“卓見を持つ有識者”を作ります。ソニー前会長の出井氏はカリスマ経営者(嫌な言葉です)と言われ、日本戦略会議の重要なメンバーでした。今、出井氏の評価はどうでしょうか？日本戦略は本当に大丈夫なんでしょうか？企業のトップに上れるかどうかは運もあります。企業のトップがすべてにおいて優れているという幻想を具体的に崩せる企業出身者は沢山います。資質や性格などをけなすことではなく、対峙する戦略立案を示すことによって。団塊の世代に、行政の方も多数いらっしゃるでしょう。専門的な知識もお持ちでしょう。ある法律の中で整合性を採る。これが基本手法でしょうが、大局的に見たらおかしいと思うことが沢山あったはずですが。それが、パッチワークの限界です。それを自由に表現して下さることを望みます。有識者による委員会に対抗する意見などいくらでも出しうる無名人材はごろごろいるはずですが。組織から離れた自由度と、更に必要ならインターネットの匿名性を利用して良いではありませんか。

3. ホンダの創業コンビの一人藤沢氏が経営のすべてを握りたいと考え、それが上手いかなくて辞める時に、それなら俺もといって深く同時に身を引いた本田宗一郎氏の話しは有名です。どちらかが止めるときは一緒にと約束したというのが理由だそうです。また、絶対に自分たちの親族を加えないという約束も見事に果たしたのです。ホンダの従業員はこの潔さをどのように思っているのでしょうか。そんな経営者たちが創り上げた企業に働くことが誇りになっているのでしょうか。

ごく最近の話です。愛媛県今治市が周辺町村との合併にあたり、人口比率で90%以上の今治市長が、合併は対等、合併時点で自分も含めた首長はすべて交代と宣言し、その“トップに立つものの潔さや自己犠牲”が困難な合併を成功させたと言われています。

「武士道」の終章にある言葉をもう一度引用して取り止めのない乱文を終えます。

“武士道は、一つの独立せる倫理の掟としては消ゆるかも知れない。しかしその力は地上より減びないであろう。その武勇および文徳の教訓は体系としては毀れるかも知れない。しかしその光明その栄光は、これらの廃址を越えて長く活くるであろう。その象徴とする花のごとく、四方の風に散りたる後もなおその香気をもって人生を豊富にし、人類を祝福するであろう。”

カレイザネットは理念でも思想でもありません。私たちがこれからは個人の時代と考え、“ビジネスにおける創造性”を推進する時、どうしても避けて通れないのが、個人を鼓舞し、個人に敬意を払う社会の構築です。そのための社会規範がどうあるべきかそれを“志”などという高尚なものを持たなくとも、今の日本がおかしいぞと感じている人たちが交流し、考え、発信する場を提供します。

“高い思想”を声高に叫べば必ず個人差がでます。手法さえ整えれば善き伝統を継承している日本人の知性は、世界に誇り得る社会規範を創り上げることができると信じています。個人の強さと社会規範はパワーになります。

例えば、外資による大買収時代が到来すると言われています。友好的なものであれば、そして従業員が不当に苦しむものでなければ受け入れれば良い。それすら避けたいと思えば経営陣は必死にならなければなりません。企業解体売却などを目的とする敵対的なものであれば、技術者が全員やめてしまえば無為に終わります。それを実行する個人の強さであり、それを見越して就職を求め者を卑怯とする社会規範、そして、離職した技術者を組織化する起業家とそれを支える個人株主です。そのような場合に備えて知的財産を離職技術者が使用できる法的整備の仕事が行政のやることです。外国人投資を闇雲に阻止するではありません。度を過ぎた理不尽を許さないこの社会規範です。それは、海外との調和のあり方について日本のメッセージであり、世界が希求する新しい資本主義の提案になっていくと思います。(2005年7月25日)

関連ブログ

1. 小泉戦略とホリエモン

国会議員の道徳観

森前総理が解散を避けるために最後の説得をした後、缶ビールと(実は高級チーズだったという)干からびたチーズを持ってインタビューに答えた。“一時間半の間に出たのが、ビール10缶で、少しでも取ってくれるのかと思っていたら・・・”という映像をご記憶の人も多いだろう。どう思ったでしょうか？私が思ったのは、たった一時間半の大事な話の最中にビール10缶も飲んだのか？というも

の。そして、以下の文章である。

(武士道の徳は我が国民生活の一般的水準より遥かに高きものであるが)、武士道はその最初発生したる社会階級より多様の道を通りて流下し、大衆の間に酵母として作用し、全人民に対する道徳的標準を供給した。”(7月25日の掲示板記事)

森氏は、教育に熱心だそうです。特に道徳に。友人が言いました。“日本電産の社長は偉い。あそこでは社長も従業員も一緒になってトイレ掃除をする。国会議員が全員で毎日自分たちが使うトイレを掃除してごらん下さい。経費は削減できるし、すごい教育効果だよ。ぐちゃぐちゃ偉そうに言うよりも。”も思い出しました。トイレ掃除は極端にしても、映像に残るのに、赤い顔してあんなことを言うのは“品”がない。国会議員の道徳以前の問題かもしれない。ポケットマネーと信じているが、料亭で会合するのも分らない。サラリーマンが、焼き鳥屋でうさを晴らすのとは訳が違うのだから。国会に会議室ぐらいあるだろう？

ホリエモンの立候補？

2-3日前にこの報道が出てから、今回の選挙に対する興味が失せ始めた。

“武士道の残渣は日本人のというよりどの民族にもある道徳観として残っている。どんな世の中、国でも腐敗はある。道徳の乱れもある。許容レベルにあるかどうかである。”

“なぜなら、私たちひとりひとりの道徳観も個人的なものであり、政治家や行政の偉い人たちの道徳観も同じく個人的に過ぎないからだ。道徳観が個人的である限りは、権力を持つ者と金力を持つ者の共謀が起る。”

“どうしても「武士道」的な社会の規範となる法律以前の道徳観や価値観が必要なのではないかと考える。繰り返すが、「武士道」は誤解を受けるし、悪用もされうる。今の時代に適合する日本人の社会規範をリードする伝統に根ざした基礎概念あるいはアイデンティティとでも言ったほうが良いかも知れない。”

利権と絡みついた古い政治体質を壊す小泉郵政解散に(竹中大臣の制度設計に疑問を感じながらも)賛成の立場を採り、あわよくば、“社会規範をリードする”何かが生まれるかも知れないと期待していたのだが、ホリエモンの件はその期待に対する“許容レベル”を超えたと思うからだ。“なぜ、ケーキ作りの美人が良くて、ホリエモンは駄目なのか？同じではないか”と考える人も沢山いるのだろう。同じか？きっとそれが社会規範に対する個人個人の許容限度の違いなのだろう。“そうだよ。それが自由主義さ。”という人もいるだろう。本当にそうか？(2005年8月19日)

2. カトリナ災害と小泉郵政選挙

国と国民

一昨日の朝日新聞に、小泉首相と岡田代表の人となりの第一回があった。その中で、自民党がホリエモンと会った翌日、岡田代表が会った時の記述がある。ホリエモンは「強いものが、より強くなるのが大事」と言ったそうである。それで、民主党の立候補者になって欲しいということと言えなかったという。断片的な話なので、ホリエモンの真意は分らないが、この言葉から受ける印象とカトリナ災害報道が頭の中で交錯する。救助も届かず、多くの人が亡くなっていく様子が報道される。国と

は一体何だろう、国民とは何だろう。

日本が借金大国であることは誰もが分かっている。国債発行に財務省が101年ぶりに今年1月からロンドンを始めとして海外機関投資家に説明会を開いている。関係資料が公開されている。

国債資料集

<http://www.mof.go.jp/jouhou/kokusai/siryou/>

財務省理財局（2005年2月22日）

<http://www.mof.go.jp/singikai/kokusai/siryou/d170222a.pdf>

2月22日の資料を見ると、日本の財政再建の道筋を説明する意図と思われる項目がある。潰れそうなベンチャービジネスが運転資金を求めて、将来のばら色を必死に説明する姿が目に浮かぶ。日本でやった説明会がTVで報じられた。高橋是清を持ち出すところが、その必死さとは異質に思える。“いいんだよ、こうなったのは俺のせいではないのだから・・・”か？

しかし、きっと、ここに郵政民営化法案の原型が将来計画の柱になって機関投資家に期待させる日本プランになっているだろうことは想像に難くない。

問題は、そのばら色の計画がベストか？である。郵政民営化の話ではない、国債引受先に示している日本の財政再建計画のことである。

財務破綻

党首討論を聞いていると、誰が政権を担おうとどっちでも良いではないか？とも思ってしまう。自民党がやろうと民主党がやろうと、やることは“財務破綻日本生き残り事業計画”の見直しと実行なのだから。お互い優秀な立案者がいれば、どっちがやろうといくつかの選択肢が作成され、その結果がでるはずである。ここまでは政治など介入する余地などない。選択肢を選ぶ段階で政治課題になる。目指す国のビジョンの問題になるからだ。今の郵政民営化の制度設計は、数多くあったはずの選択肢のどこに位置するのか？数多くあったはずの選択肢を示してほしい。選択肢などなく、一直線の検討ではなかったかとの疑問も湧く。

ホリエモンが言う「強いものが、もっと強くなる」、それでも良い。その結果、日本でカトリーナのような被害を受けても被災者が助かるなら、ホリエモン、強くなってください。楽天やヤフーと日本語だけの闘いではなく、海外ビジネスを相手にしてグローバルに勝って強くなってください。国内だけなら、どうでもよいコンテンツを奪い合うゼロサムゲームだ。「国内だけで、“強いものが、もっと強くなる”のがあなたの言う改革の必要性なら、あなたは要らない！」

原型自体の位置づけもはっきりさせ、さらに国会審議で変形した郵政民営化法案も含めて、“財務破綻日本の生き残り事業計画”を誰が作り直すのか？

国会議員に求められるのは、洞察力や優秀な官僚を使いこなす能力であり、それを仕組みとして機能させる力である。これから10年間、それ以外のどんな能力を必要とするのか？（料理研究家はここで何をやるのだろうか？）

二段構えの政界再編を考えている人もいるそうだが、そんな時間もないだろう。今、マニフェストの違いの攻め合いを聞くのも小異に響く。政党を超えてリーダーを定め、一度決めたら再建計画を作り直し、資金調達を行う傍ら、歳出削減と税収入の増加策をもっともっと真剣に考え、実行する時だからである。

国の研究機関が独立法人になって、知っているだけでも3つの研究機関は似たようなテーマで未だに予算が付き、片方で、民間で使えないような特許を売ろうとしている。これが独立法人になった活動かと思うと情けない。大体独立法人は、なぜ研究テーマごと人付きで民間に身売りしないのか？

海外の研究機関に売れないのか？研究者が研究を続けたければ特許を与えることを条件にそれを受け入れる国へ移住することも考えたらどうか？

大学や公的研究機関の研究成果がそんなに価値あるものなら、海外にもっと売却できないのか？MITと勝負するのが怖いのか？特許庁の費用で中小企業に売るためにセールスマンを雇ってどれほどの成果が出たのか？一円企業が一万社できたと行って小泉首相が自慢しているが、技術に自信があるのなら、資本金一円などと言わず、長期計画を持って日本を飛び出せ。

こんなひとつひとつを作り直していくのだ。

公務員の削減ばかりではない。国庫収入を増やそうとしたら手をつけなければならないことは無数にある。国会議員の仕事も、公務員の仕事も大変になる。これが“改革”の意味であり、中身のな

潰れそうなベンチャーの技術を作り直し、売り上げなしの状態の開発費捻出のためのあらゆる手段を講じて疲弊し、燃えつき症候に落ちた1991年から1998年の8年間を思い出して身震いする。今の日本はちょうどその状態にあるのだろう。(2005年9月3日)

3. トホホの選挙「こずるい人が生き残る旨みのある生業」

高村薫

“小泉首相の郵政民営化は200%賛成、靖国参拝はマイナス150%、差し引き50%で自民党に投票する。”これは、今朝の新聞で読んだ50代の人意見だそう。有権者ひとりひとりが独自の論拠によって投票を決める。民主主義である。

直木賞作家高村薫氏は言う。「国民を憂う、それが国会議員に求められる唯一の資質です。旨みのある生業と考える人が出てくるから困る。他の人のことを考える職業は政治家と宗教家しかないのだ。」という言葉は重い。

こずるいと言われた

昔TVに良く出ていたイーデス・ハンソン女史。日本に住んで45年になるという。「この45年の間に日本は随分変わった。変わらないものは、「政治家に良い仕事を期待しないで、政治はどうせそんなものと思っていること。強く言う人は出てきているが、いい続けたり見続けたりする人がいない。」それが一つ。そして強烈な二つめが、「日本社会の“こずるくなければ生きていけないという風潮”と言う。“こずるさ”は耳に痛い。高村氏の“旨みのある生業と考える人”と重なる。

中国人を“こずるい”、まともにやっていると騙されるから注意しろ、と言う日本人も多数いる。しかし、45年も日本に住んでいるハンソン氏が日本人をそう思っていることをどう考えるか？

今、歴史教科書問題や靖国問題で読むブログに、戦争中の日本人の残虐行為について、“そんなことを日本人がやるはずがない。”というコメントが結構沢山ある。日本人は「武士道精神」を持っているから高潔と考えたいのであろう。

私は、日本人がそうしたことをやらない国民でありたい、あって欲しいと強く思う。しかし、80年代のバブル期の日本のビジネスマンの言動から、我々日本人が、いかに傲慢であるか、強い立場になれば如何に相手を蔑むか、という現実を見た。ショックを受けながら見た。

子供の頃、“稔るほど頭の垂れる稲穂かな”という言葉をよく耳にした。親にも言われた。しかし、これは言葉だけの謙虚さの理想に過ぎないのであろう。“こずるさ”は生きていく術だから、内心では違おうと思っても上司(上司)が言えば従う。周りがそうだとすれば、流される。改革、改革と叫ぶ立候補者もそして私たち有権者ひとりひとりも本当に改革しなければならないのは、“こずるさ”の変

革なのかも知れない。

ハンソン女史の記事は朝日新聞にある。朝日と言えば、記事捏造で激震が走っている。記者の倫理も含め組織に問題があるということで、抜本的な見直しをするそうだ。監視委員会を作ったりするのだろうが、付け焼刃に終わるような気がする。これは、倫理、コンプライアンスなど今話題になっているさまざまな表層に表れる事柄の根幹の企業文化の問題である。

企業文化の意味は、辞書によれば、「その企業ならではの独自性のこと。コーポレートカルチャー。社員一人ひとりが共有する価値観、行動規範から作りあげられた文化。その企業独自の価値体系や思考、行動、社風、体質、企業理念、組織構造、リーダーシップの違いにより、企業文化は異なってくる。」とある。

80年代後半から90年代に盛んになったCI(コーポレートアイデンティティ)が、結局は会社のロゴ作りに終わってしまったところが多く、真の意味で企業文化の域まで掘り下げられなかった。早稲田大学の松田教授は、企業は、「企業文化の醸成→企業ビジョンの構築→経営戦略策定→具体的な経営行動→経営業績の公表→株主総会によるチェック」という一連のサイクルによって運営されている。」と言う。

経営者理念がそのまま企業文化という短絡もあるが、それが企業文化となるには松田教授が言うように醸成という過程がある。それをどう醸成するのか、その手法を持っているか、その手法の示すことを忍耐強く実践できるのか、等々、経営テクノロジーの問題なのである。朝日新聞社がどのように“抜本的な改革”をするのか、注意して見ていきたい。

まさか、スクープをものにしたかった記者の“こずるさ”が原因だったなどということだけで終わらないとは思いますが…。

別に日本ばかりでなく、西欧だって“こずるい”人はいる。高い地位にある人にとって“こずるい”人が便利なこともある。そして重用される。その下に居る人も“こずるく”なる。

あなたの会社は“こずるい”と言われたいですか？“言われて構わないさ、儲かっていれば”でしょうか？

しかし、外国人に“日本人はこずるい”と言われたくはないでしょう？

と書いたら、午後、参議院で郵政民営化に反対した鴻池議員が、自公が勝ったら賛成に回るという報道である。“信念に基づいて反対に回る”のも筋。“民意に従うのも筋”なんだそうである。旨みがある生業だから仕方ないのですかね。力が抜けます。トホホです。

投票まであと一日になった。この選挙騒ぎで、国も自分自身をも見直すことができた人も多いと思う。ブログを読んで、多様な見方や意見があることも分った。誇れる日本に向かうことができる結果が出ることを期待する。(2005年9月9日)

4. みずほ証券の入カミスと武士の情け

構造欠陥マンション事件についてあまりに情けなくて何を書く気にもならなかったのですが、今度は、みずほ証券と東証の経営者がまたテレビの前で頭を下げるシーンです。もう見たくないっ！と思いますが、興味を抑えられずに書きます。

外資証券会社、日興コーディアル、野村證券等々がしっかり儲けた、と言っても合計で40数億程度なのですが、彼らは受け取るといいますか？

誰が見ても単なるミスです。91万円何がしの強制現金決着の通り、儲けたものは儲けたものとするのでしょうか？私は、彼らが全額放棄するか、せいぜいその10%程度の金額で矛を収めるのではないかと期待しているのですが、甘いでしょうかね。

そうあって欲しいと心から思います。これが、つまらないミスを許す“日本が社会規範として持つべき武士の情け”ってやつと願うのですが、駄目ですかね。人の命がどうのという問題ではないのですよ。“得した、損した”に、何の知恵もないのです。単なるお馬鹿なミス。将棋でも囲碁でもありません。待ったはありませんというものでないでしょう。外資証券の日本の責任者は、放棄したら本社に叱られるのでしょうか？

それにしても“たった1株”を売るつもりだったのですね、みずほは…。そっちの方がびっくりしました。売らなきゃ良いのに。何株持っているのか知りませんが、社長の責任は、1株を売ろうとしたそのけち臭さにあるから、それがバレた恥ずかしさからの辞任と受け取りましょう。

もう、ついでに書きますが、あのマンション事件。

近々大地震が来るのは間違いという占い師の言葉を信じて、“構造なんかどうでも良い。地震が来る前に稼げるだけ稼げっ！”っていうのがあのグループの本当の動機だったなんてことはないでしょうね。将来の不確実性に賭けたプロの経営者ですね、本当に…恐ろしい。

(2006年12月13日)

5. ほらあるじゃないか！武士の情け

「そんなことするはずじゃないか、甘いね、あんたも！」、「金融のやつらだぜ、やらないよ！」、「ユダヤ人だよ外資は、しないよ、そんなこと！」、「あんたはいつまでたっても子供だね！」って言った友人たち。みずほ証券のミスで儲けた証券会社の返金期待の話(13日のブログ)。

可笑しいのはあんた達。まだ、まだ捨てたものではないのです世界は…

自分以外を色眼鏡で見る悪い癖。ペニスの商人の先入観での知ったかぶり。日本人はすごいけど、怖いところがあると言ったシンガポールの元首相が言う怖さは、先入観が勝手に増幅していつの間にかそれが社会の真実になってしまうところかもね。

嬉しいですね、こういう話は。(2005年12月15日)

6. 再び武士の情け—みずほ証券のミス

16日の朝日新聞社説“利益返上「美しさ」と危うさと”は、返上が人々の心情を汲んだものではなく、与謝野金融担当相の「美しい話ではない」の一言が流れを作ったとして、「美しくない取引」を繰り返さないルールやシステムの改善が急務と書いています。

いいではありませんか、どんな流れでも。どうして表ばかり読み、斜に構えた皮肉と当たり前の結論しか言わないのでしょうか。返上する証券会社を褒めちぎれば良いものではありませんか？それが、心情を代表する大新聞のやること。そうすれば、ディール担当者は、間違いと気付いた時点で買いを入れられない本当のフェアな行為に発展するかもしれないし、乱れた社会規範の建て直しに役立つかもしれない。この国のインテリの代表の朝日だからどうしても“斜に構えて皮肉を入れる”風土が出てしまう。Appreciative Inquiryでも勉強してはどうでしょう？ そう言えば、衆議院選挙時、亀井衆議院議員のことで会ってもいない長野県知事のコメントを書いたことが大騒ぎになりました。問題の根源を探る調査委員会が社内に作られ、その結論と今後の対応策に大きなページを割いて報告していたのを思い出します。風土を変える必要性を強調していましたが、手法がまったく見えませんでした。これは、NHKでも同じです。組織開発や組織文化変革などのテクノロジーについて無知なことが分ります。もっと勉強してくださいよ、まったく。(2005年12月18日)

7. ライブドアで誰が何を恥じるって？

今日はとりわけ機嫌が悪い。

ライブドアの件で、日本のマーケットの信用が落ちるから困るという街の声。したり顔の街の投資家。加担したのはあなたでしょう。ライブドアの実質価値も調べずに踊ったあなた自身の問題です。散々儲けさせてもらったのでしょうか？たった一つの事件で、IT企業全部の株をあわてて売り抜けようとするあなた自身の問題です。

折角景気よくなったのに、また後退する？今までどおり株を買い続けなさい、波及効果を心配するなら。今までどおり信念を持って買い続ければ良いではないか。時価総額が3000億円減ったって？その分、あなたが他の株を買えば良い。

ホリエモンを象徴して褒め上げたでしょう？ホリエモンのおかげで企業が株主のものだということを茶の間に知らしめたって喝采を送ったのはどなたでしたっけ？

たったこんなことで手のひらを返さないでください。信じてあげなさい。一度信じたら死ぬまで信じる！そうしなさい！

私は、海外ニュースが、日本のIT企業、ライブドアが・・・というのを聞くたびに恥ずかしい。

民主党の鳩山氏が、ホリエモンのことでポピュリズム政治の危うさが見えたと言ったと攻勢をかけるという。何を5ヶ月も経ってから・・・何を今更ですよ。ひそかに民社党を応援したのにあのさまです。その責任はあなたにあるのですよ。思い出しても腹が立つ。鳩山さん、あなたもこの2つのブログを読んでごらんください。

それにしても元東芝会長の西室さん、東証の会長に就任したばかりなのに450万株しか取引できないからって頭を下げなさるな。あななの責任ではないでしょう。ご自分だって責任があるなどと思っていないでしょう。頭なんて下げなさるな。三位一体の委員長をした後、東証の会長ですか？それにしても日本には本当に人材がいないのですかね。西室さん、何で引き受けたのですか？誰かのお声がかりでしょうけど、断ったらいかがですか？もういいではありませんか？職を欲しがっている人はたくさんいるのですから。

たった一つの事件で大騒ぎする。何でも人の所為にする。日本を嘆くなら、マーケットの信用を心配するなら、あなた自身が何とかしてください。

機嫌がさっぱり良くなるらない。(2006年1月19日)

8. ライブドアに損害賠償を求めるのは勝手だが・・・できるのか？

「私たちは十分デューデリ(Due diligence—財務事前調査)をやりましたからね。情報が十分開示されていなければ、損害賠償も考えます。」

フジTVの日枝会長がインタビューに答えていた。

昨日でもう書くのを止めようと思ったが、ちょっと癪にさわる。これ以上、恥の上塗りをしないほうが良いのではありませんか？フジTVさん。と言うのは、昨年散々書いたことを思い出したからだ。

その1:

地裁判決直後の亀淵社長の「従業員一同の意思が無視された判決に控訴します」と言い、判決の内容に関してどう思いますかの質問に、「よく読んでいないので、それは法律事務所とも相談してこれからです。」一方、日枝会長の、「判決に不満であるが、当事者は日本放送ですから・・・」という両経営者の発言は、この経営者達に戦略という考え方が欠如していることを示すものだからです。……………

フジテレビが日本放送に対してTOBを掛けたのは、もともと村上ファンドが18だか19%だかの株を取得したことにあるのでしょうか。かなり前のはずです。経営陣は、それ以後、TOB宣言まで一体何をしていたのでしょうか？そして、TOB宣言をした時のフジテレビの保有する日本放送株の持ち株は12か13%程度であったと聞いています。なぜ、そんな低い持ち株比率でTOB宣言をしたのでしょうか？

TOB宣言をする時に、ホリエモンでなくとも誰でも良いのですが、株価が上昇すると思ってホリエモンのような行動に出るところがあると考えなかったのでしょうか？

全文は、2005.03.14 Monday「もういい加減にしたら フジテレビと日本放送」にあります。

その2:

このような視点から、フジテレビとライブドアを見てみましょう。フジは時間外取引が卑怯と言います。この卑怯という感覚は、伝統的にあの年配にある人たちの個人的な徳の基準です。(私もそれには同意します。)しかし、ホリエモンには、違法ではないという基準だけで卑怯の感覚が分りません。法が唯一の基準なのでしょう。ホリエモンの世代は、社会規範に自信のない世代に教育された、これも悲しい世代です。一方、フジは卑怯と言っても、手法を持っていないばかりに幼稚な攻撃に曝されました。私は、この事件では、フジ側の不勉強(勤勉さ)を非難する気持ちが強いです。感覚として、理念らしきものがその血にあるにもかかわらず、混沌とした結果生まれた金権主義に根ざす体制にどっぷり浸かって他の徳の基準がすっぽり抜け落ちているからです。フジの会長の朝の記者のインタビューに対する返答は右往左往したでしょう。単純に若い世代への迎合と個人的な感覚(徳とは言いませんが)が行きかう自信のなさの表れです。そして、株主総会で辞任するかと思いきや、居座りでしょう。感覚の“卑怯”が徳になっていない典型例です。そして、それを押し留めることができない社会の“卑怯さ”に対する通念の希薄を示しています。

全文は、2005.07.23 Saturday「カレイザネットに期待を込めて」です。

それで:

ホリエモンに幼稚な攻撃を仕掛けられ、お粗末な対処で、記憶では2600億円ぐらい損したはずで、その責任を取らず今も会長です。挙句の果てに、「十分なデューデリをしましたからね。」ですよ。してないでしょう。ライブドアの財務諸表を見ても分らない程度のデューデリってことです。財務諸表を読める人がいないってことはないですよ。さらに、捜査が入った途端に辞任届けを出しましたがライブドアにフジからの取締役がいたのですよ。就任前の事件だから関係ないってことですね。損害賠償を出さなければフジの株主から突き上げを食うことを心配しているのでしょうか、損害賠償請求するのは恥の上塗りと思うのは私だけでしょうか

株主代表訴訟が起こるだろうと言われていました。同じことを言いたいです。散々楽しんだのではないですか？一時的には儲けた人もいるのでしょうか。一時的に損をしたということであきらめられませぬのでしょうかねえ。ホリエモンは時価総額を高めるのが目的だとあれほど広言していた訳ですし、本体の売上げはたかだか80億円か90億円程度。仮に粉飾していたとしても、一株当たりの純利益はたった一円以下ですからね。そんな企業の株を買う方にも大いに問題ありでしょう。粉飾だから「話は別！」と言うのは、虫の良い話に響きます。検察の捜査がなければあの高すぎる株価に問題がなかったとでも言っているように聞こえます。

前々回書いたように時価総額経営など成り立たないのですから、それに踊った人はホリエモンと同じ人種に思われませんか？

それにしてもTVで見た忘年会のホリエモンのニッカポッカ。似合いますね。感心しました。

「当選していたら逮捕などなかったろう」と言った人がいました。

これもポスト小泉と関係あるのだろうか？ 検察に別の狙いもあるのだろうか？ だんだん野次馬になっていきそう。もう、本当に止めよう。でも、最後にもう一言。時価総額と企業価値の混同がなくなるように……

「企業価値を高めると言われると正義に聞こえるせいかマスメディアも黙ってしまうが、本来の意味は、将来価値である。電鉄のようなインフラ・ビジネスはストックを使い切ったらその先の成長は基本的に難しい。球団だってそうである。国内市場しか持たず、海外マーケットを狙えない、しかも集客力も成熟しているところを上場して将来価値はどうなるのであろうか？ 目先の利益を追い、不動産の含み利益を考慮すれば株価が低すぎるから株を買い占めればというファンドが産業を強くすることにはならない。」

全文は、2005.10.18 Tuesday「MOTと企業文化(6)―村上ファンドが提起する“企業とは何か？”」にあります。ぜひ読んでください。(2006年1月24日)

9. ホリエモンの功罪なんて言わないーライブドアの再建戦略

週末、どのTVも、論客(?)が出演してホリエモンの立候補問題や小泉改革路線との関係を論じていました。「危うさを以前から指摘していました」などとのたまったコンサルタントもいました。

私は、折角国際的に名が売れたライブドアを使ってインターナショナルなIT企業に作り変えたら良いではないかという不遜に響くノリで声を上げてみました。しかし、週末の新聞やTVを見て改めて、軽いノリでなく、真剣にそれを考えた方が良いと思います。

たったひとりに踊った日本

ホリエモンの時価総額経営の結果は、日本人誰もが心の中では“これでは駄目だ”と書いていても歯止めをかけられなかった戦後60年間の私たち日本国民に対する強烈なしっぺ返しだからです。ホリエモンがそれを意識していたかはどうでも良いです。私が、「明治以後崩壊した日本の社会規範を作らなければならない」などと偉そうに言っても誰も相手にしないブログなどより、何百万、何千万倍にも相当するインパクトを与えた事実から目を逸らしてはならないと思います。犯罪と言って片付けるのは簡単です。コメンテーターの誰かが昔のお年寄りをだました詐欺商法の豊田商事事件と重ねた指摘もありました。私はクラシックな仕手の手口と揶揄しました。そう言ったことがちょっと恥ずかしいです。そのような見方はあまりにも斜に構えた皮相的なものに過ぎないと気付きました。この事件は、70年代田中角栄の日本列島改造論以後土地売買に狂った日本、80年代株価が4万円にもなろうかとしたバブル経済に踊って傲慢になった日本、そして今度は、たったひとりのホリエモンに踊らされた日本ということだと思うのです。70年代と80年代は、権力と構造的なものに踊らされたというあきらめもあったでしょう。しかし今度は最悪です。ひとりひとりが踊らされた張本人なので逃げ場はありません。

30代前半のホリエモンが何千億円を持っていると豪語し、30億円の自家用ジェット機を保有し、家賃200数十万円のマンションに住んでフェラーリを乗り回し、いい女をはべらす。それを広言してTVで曝す。それでも、ボディガードに囲まれずに歩き回ることができる。なぜですか？ あうんの呼吸の相手があることなど当然ではありませんか。東京地検の捜査で糸が断ち切られたと言ったのはそこです。政界にどう広がるのか、それは知りません。私にはそれらはどうでも良いことに思えます。汚職はもちろん、闇との関係が指摘された経済事件はこれまでも多数ありました。そんな事件が起こるたびに、私たち国民はそれに憤慨し、税金がそんな形で浪費されたことを怒ります。しかし、今

回は、いつもその憤慨だけですぐに忘れてしまう国民全体が相手にされたのです。

“お金で人の心を買える”、あれほどあからさまに言った人はそうはいないでしょうが、結局今の日本はそうなっています。当時の岡田民主党代表は、「国民はバカだから」と何度も口にしたので選挙出馬を要請しなかったそうですが、私も含めて近鉄買収で応援した人たち、フジ TV で喝采を送った人たち、選挙で応援した人たち、時価総額に踊った人たちはその証拠でしかないとと言えます。弁護士会が被害者救済に動き出していますが、拘置所のホリエモンに笑われます。そんなことが日本人をもっと馬鹿にする、と。外国特派員の前で言ったという「もっと勉強しないとずる賢い人にだまされますよ」という発言。もの見事に騙されたではありませんか。「悪いことをしては駄目よ。結局捕まるのだから。」「危ういことは長続きしないんだよね。」「犯罪は犯罪として糾弾されなくてはならない。」「ホリエモンも若くて経験が足りなかったということでしょう。」「私は、今日のようなことを予想していた。」などと言う人たち。今になってそう言う人たちも踊った人のひとりです。ホリエモンの行動を苦々しく思った人たちも沢山いたのも事実です。しかし、その人たちはホリエモンほど私たちのバカさ加減を証明できたのでしょうか。37億円の債務で倒産し、その自叙伝「社長失格」を書いて見事に復活され、現在コンサルタントで活躍されている板倉さんという方は盛んに株主教育の必要性を訴えてきたことを強調されていました。その効果はどのくらいあったのでしょうか？ホリエモンが今回突きつけた効果と較べてみてください。私たちひとりひとりのバカさ加減をこれほど突きつけられたことはありません。竹中大臣、これほどのバカさ加減に曝されたことはないでしょう。東証だって世界中にバカさ加減を知らしめられました。経団連だってそうです。

そして、ここであいつは犯罪者だ、闇の構図を解き明かすことが大事だ、SECを500人体制から2000人ぐらいまで増強しなければ、なんてことで終わらせたなら私たちのバカさ加減は直りません。忘れては駄目です、今度は、高度経済成長からの45年間でほぼ15年おきに起こった3度目ですから。

ライブドアを残す

そのために：

- 1.社名変更も話題になっているようですが、ライブドアの名を無くさない。
- 2.さっさと上場廃止にしてどこかのファンドの買収を防ぐ。
- 3.本体の株主は株主として残り、株主代表訴訟など起こさない。
- 4.ライブドア本体を世界に通用するIT企業として生残させる。
- 5.そして、天下晴れて再上場を果たす。

これをライブドアの新経営陣(熊谷さんは辞めざるをえないでしょう。)、残る技術を持った従業員、残った株主、そして何の利害も持たないバカな個人有志でやるのです……特に私のような爺たちも含めて…できれば手弁当で。

ホリエモンに突きつけられた私たちのバカさ加減を自覚しましょう。政治家も、官僚も、MOTの先生たちも、ホリエモンに続けと鼓舞した起業塾の先生たちも、他の優秀なIT企業経営者も、知恵ぐらい出してください。個人でやる分にはできるでしょう。反面教師にしましょう、この事件を。

NHKのデジタル技術と映像をライブドアから世界に流しましょう。フジ TV だって世界に通用するコンテンツは何かあるでしょう。世界の富豪相手に日本超一級のクラフト製品のショッピングモールをやきましょう。最新アニメを流しましょう。生産技術や環境技術のeラーニングを世界に売りましょう。

亀井先生、こんな協力が日本人の情、和の精神を取り戻すきっかけに変えることが出来るかもしれ

ません。森前総理、こんな協力が、お金が一番になっている風潮を正せるきっかけに出来るかもし
れません。(2006年1月30日)

以上

手法を持たずに理念を実現できるか

<http://p.booklog.jp/book/41539>

著者 : Hideo, Japan

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hzwatanabe/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41539>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41539>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.